

## 令和 2 年度新宿区環境マネジメント活動結果について

### 1 運用状況

#### (1) 環境マネジメントの運用体制

260 課・施設（指定管理施設を含む）

#### (2) 研修の実施

環境マネジメント推進員・担当員研修の実施（書面開催）

推進員及び担当員の役割に特化した研修資料を作成し、全 260 課施設にメール送付することで書面開催としました。（令和 2 年 5 月）

新規採用職員研修（人材育成等担当課）

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止しました。

環境監査員研修・環境法令研修（全 2 回）

感染予防対策を徹底した上で、開催しました。

令和 2 年 8 月 5 日～6 日

（環境監査員研修受講者：31 名うち新規監査員 22 名）

（環境法令研修受講者：98 名）

#### (3) 環境監査（令和 3 年 1 月の環境基本計画推進本部会議で報告済）

令和 2 年 10 月 12 日～ 11 月 13 日 監査施設数 86 課・施設

従事監査員数：61 名

#### (4) 環境マネジメント通信の発行

庁内の省エネ・省資源活動を推進するため、年 4 回職員向けに発行しました。

#### (5) マニュアル等の改訂（令和 3 年 3 月の環境基本計画推進本部会議で報告済）

監査結果及び環境マネジメント運用結果等を踏まえ、環境マネジメントマニュアル等を改訂しました。

### 2 令和 2 年度環境マネジメント活動報告書の概要

#### (1) 環境目標と達成状況について

各課・各施設の実態にあった良好な取組と評価 別紙（1）のとおり

各課・各施設で目標を設定し、工夫しながら達成するなどの良好な取組が見られました。

エネルギー使用量等の数値目標と評価 別紙（2）のとおり

令和 2 年度から建物所管部署においては「エネルギー使用量に関する数値目標」を設定するよう制度を見直したことから、多くの課・施設で数値目標を設定し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら省エネ活動に取り組んでいました。目標が達成できない場合でも使用量の増加を最小限に抑える工夫を各課・各施設で行っていました。

#### (2) 環境法令（重点事項）の管理

環境監査の結果、多くの施設で適切に管理されており概ね良好でしたが、一部の施設で、簡易点検の漏れや環境法令重点項目遵守チェック表の作成漏れについての指摘がありました。

### (3) エネルギー使用量等の実績について

区の全体目標として、エネルギー使用量等を前年度の実績値から1%以上削減することを目ざし、省エネルギーの推進に取り組んでいます。令和2年度はすべての項目において目標を達成しました。

#### 令和2年度のエネルギー使用量等の合計と達成状況

項目	2年度実績	2年度目標 (元年度実績1%減)	対目標比 (実績/目標)	達成状況
電気	33,739,475 kWh	37,003,826 kWh 以下	91.2%	達成
ガス	3,260,612 m <sup>3</sup>	3,324,075 m <sup>3</sup> 以下	98.1%	達成
水	558,478 m <sup>3</sup>	730,288 m <sup>3</sup> 以下	76.5%	達成
ガソリン	53,149 ℓ	58,573 ℓ 以下	90.7%	達成
用紙	86,246,496 枚	122,132,102 枚 以下	70.6%	達成
ごみ	928,467 Kg	1,034,195 Kg 以下	89.8%	達成

#### 建物単位でのエネルギー使用量の前年度比較(全137建物単位)

##### 電気

新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休館等も大きな要因だと思われませんが、各施設におけるエネルギー使用量の削減に向けた取組により、目標を上回る約10%削減を達成しました。

##### ガス

全体としては減少していますが、ガス使用がある119建物中、71建物で使用量が増加しており、そのほとんどが、空調にGHPを使用しており、感染症拡大防止対策として換気しながら空調を使用することが要因と考えられます。

##### 水

各課・各施設の節水の取組により、約24%削減を達成しましたが、地域交流館でのお風呂利用の中止や学校等でのプールの授業中止による影響が大きいと考えられます。

##### ガソリン

公共交通機関の積極的な利用やエコドライブ、効率的なルート運行などの取組により、前年度より使用量を削減できましたが、感染症の影響で現場への出勤が少なかったことも要因だと思われれます。

##### 用紙

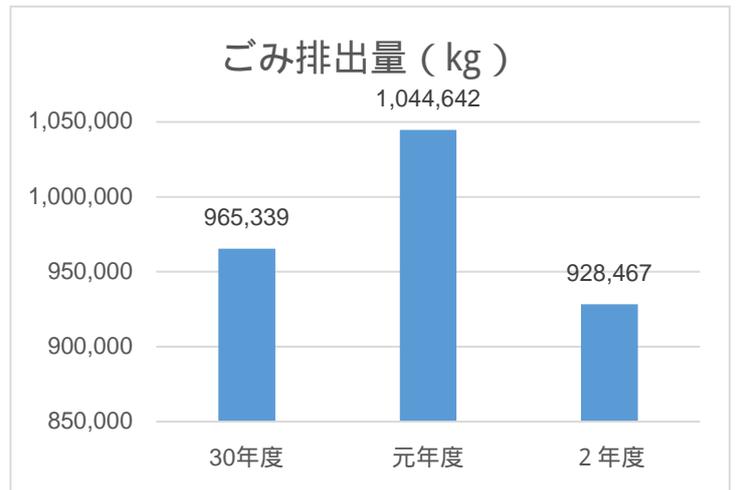
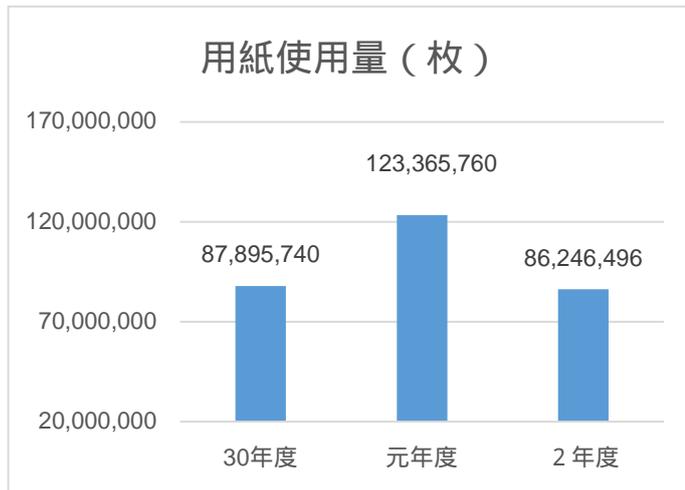
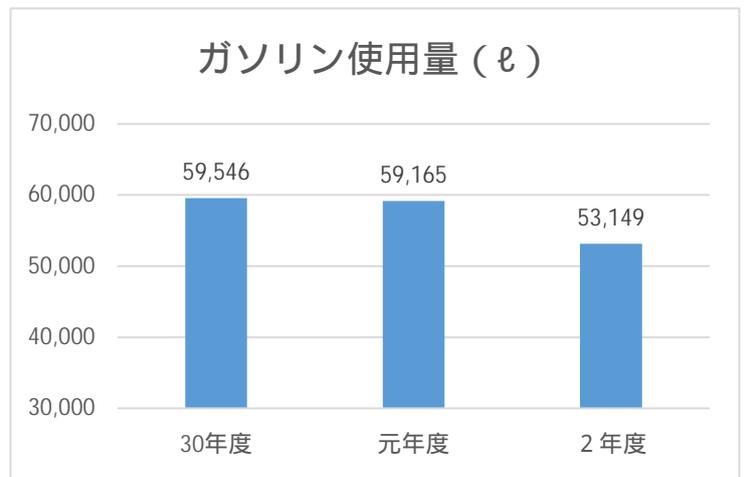
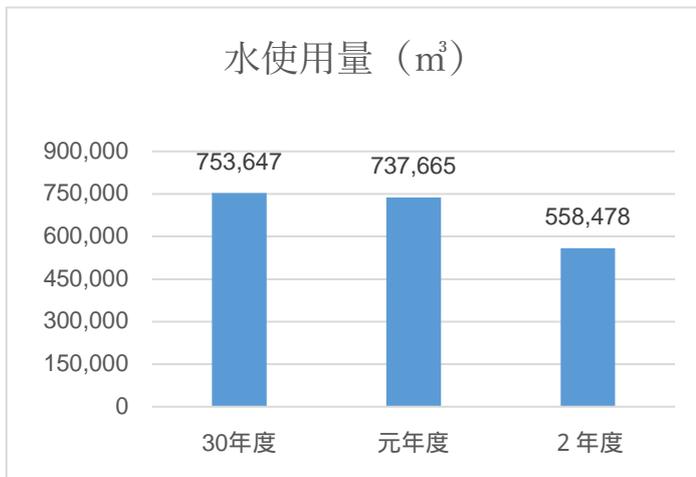
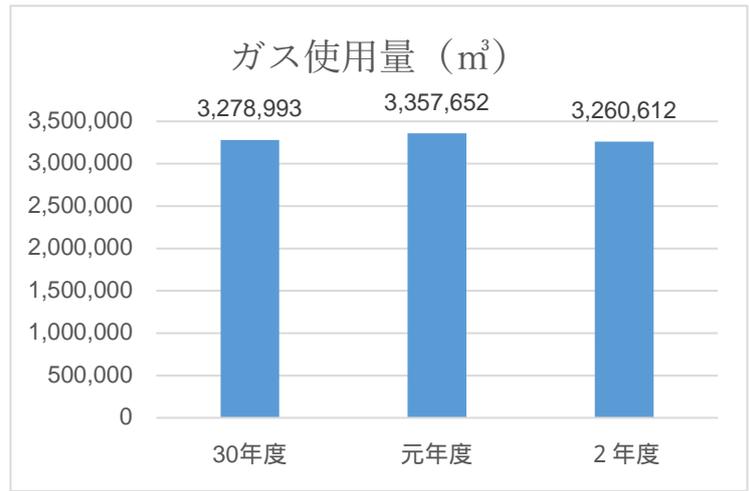
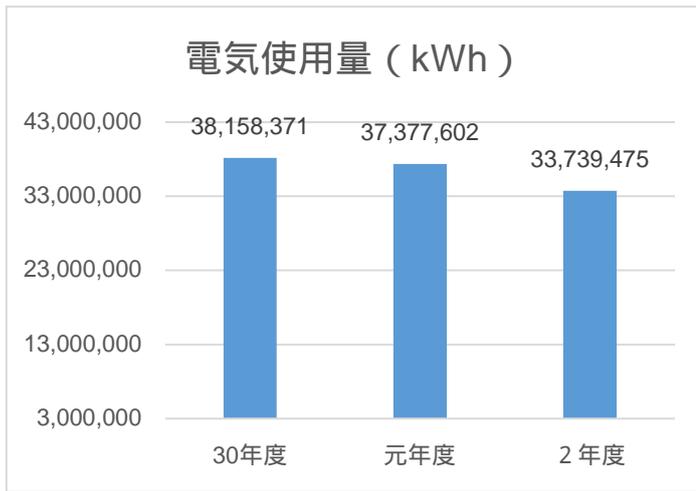
昨年度が隔年発行の「くらしのガイド」の作成年度であったことから30%減少していますが、発行がない30年度の数値と比較すると減少率は約2%でした。各課・各施設でペーパレス化へ向けた取組が見受けられましたが、感染症の影響により、会議の書面開催やお知らせの送付など書面でのやり取りが増加したため、大幅な削減には至りませんでした。

##### ごみ

全体としては、可燃ごみ、不燃ごみともに減少していますが、可燃ごみは63建物で増加しており、感染症対策としてペーパータオル等の使い捨てのごみが増加したことが要因と考えられます。

不燃ごみは、施設の休館中に事務所の整理を行った一部の施設で増加していましたが、多くの課・施設で再利用可能な製品を積極的に使用する、利用者へごみの持ち帰りの協力を促す等、排出削減の取組が見受けられました。

## 直近3年間のエネルギー使用量等の推移



平成30年度は261課・施設が対象、令和元・2年度は260課・施設が対象

## 環境目標と達成状況について

別紙

### (1) 各課・各施設の実態にあった良好な取組と評価

対象課・施設	目標	評価
四谷特別出張所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ及び分別等に関する掲示を行い、職員等の意識向上に努める。</li> <li>・常駐委託業者に関しては週1回の打合せの際に施設の現状を報告し、状況にあった環境保全策を実施する。</li> </ul>	職員に対しては、環境マネジメントの目標の周知徹底を図るため、メールや担当員からの口頭での説明等を繰り返し行った。常駐の設備管理委託業者とは通例の打合せを通じて、ごみの分別が正しくできていることを確認し、空調機の温度設定等に関する情報共有を行うなど、省エネの推進に活用した
選挙管理委員会事務局	会議や打ち合わせ等での飲料の提供は、極力繰り返し利用可能な製品の利用及び購入に努める。	令和2年7月に実施された東京都知事選挙時だけでなく、年度後半に開催された会議等でも、飲料の提供にはアルミボトル缶を採用し、年間を通じてペットボトル(使い捨てプラスチック)製品の使用量削減に積極的に取り組むことができた。
榎町特別出張所	毎週、水曜日及び金曜日の18時以降、執務室の空調を一旦全停止し、空調の消し忘れ等による消費を防ぐ。	年間を通し、執務室の空調の消し忘れはなく、目標を達成している。この取組は次年度も継続して実施する。
北新宿第一児童館	行事で作成する工作に、紙パックやペットボトルを使ったエコ工作を実施する。リサイクルを実施することで環境に対する意識を啓発する。	どきどき祭り(併設地域交流館と共催の館祭り)が中止だったため、例年行われているエコ工作が実施できなかったが、館内で出た紙パックを児童の工作キットに提供したり、利用者が工作で作ったものを持ち帰る際に、古紙で作ったエコバッグを渡すなどしてエコへの意識を高めてもらった。
議会事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の枚数・部数に配慮し、簡素化する。</li> <li>両面コピー、用紙の裏紙利用を励行する。</li> <li>可能な限り資料を人数分コピーせず供覧する。</li> <li>ペーパーレスを心がける。</li> </ul>	区議会 ICT 化、印刷物のページ数減少等により、用紙購入量・印刷物作成量ともに前年度より減少し、全体として約23%の減となった。

対象課・施設	目標	評価
高田馬場シニア活動館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラ対策を重点推進事項として、職員のマイボトル化、会議でのペットボトルの廃止を行う。</li> <li>・利用者への啓蒙活動を積極的に行う。</li> </ul>	職員に対して、マイボトル化の実施、ペットボトルの持ち込み禁止。利用者に対して、廃プラ問題の啓蒙活動の実施、マイボトル化及び利用者、町会等会議でのペットボトル持ち込み廃止の協力をアピールし、改善に結び付けた。
北山伏児童館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員は、環境に配慮した行動を年間1件以上達成し報告する。</li> <li>・担当員は目標達成への取組をサポートし、共有を行えるシステムを構築する。</li> </ul>	「新1人1エコ」-全職員が環境に配慮した行動の年間目標を掲げ、各職員が環境に配慮した行動を宣言した。施設内の利用者が閲覧できることで、職員間だけではなく、利用者へ環境維持活動に関心を持っていただく一助になった。「SDGsの研修を取り入れ」-全体会議（月1回開催）で研修を行うことで、施設全体の環境問題への取組が深まり、館外への周知を行なうことができた。
早稲田南町保育園分園	毎月5の付く日をマイボトルデーとし、職員全員がマイボトルを使用する日を作る。	特定日をマイボトルデーとしていたが、特定日に限らずほぼ毎日マイボトルを使用する職員が増え、ペットボトルごみがなくなった。
しなのまちこども園	掲示や分別の仕方の表示を明確にし、ごみの削減や分別の徹底をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園独自の省エネ・省資源チェックリストを作成し、園目標を意識できるようにしたことで、職員の意識向上につながった。</li> <li>・ごみの分別や削減も、職員が意識することで、子ども達へも働きかけ、園全体で意識することができた。</li> </ul>
おちごなかい子ども園	みどりのカーテンプロジェクトに参加し、子どもたちと共に涼しさを実感したり、温度計で気温を測り、視覚でも差を感じられるようにしていく。保護者にも取組を掲示板などで知らせていく。	みどりのカーテンの中と外で気温を測り、子どもたちに知らせたことで、みどりのカーテンの効果をより体感することができた。保護者に連絡ボードなどのなかで取組を伝え、周知してもらえた。
余丁町小学校	毎月の定時退勤日、18時以降、職員室の空調を一旦全停止し、空調の消し忘れ等による消費を防ぐ。	定時退勤日の空調停止をし、消し忘れ等の防止の啓発を行った。電気使用量は前年を上回ったが、引き続きこの取組を続けていく。
落合第五小学校	再生紙ボックスを設置し、可燃ごみの削減につなげる。児童・教職員へ、ごみの分別、節電やリサイクルを励行する貼り紙をするなど、意識の向上を目指す。	再生紙ボックスは全教室に設置した。環境委員会の児童と共に、「紙はリサイクルできるもの」「使ったティッシュは燃えるごみ」など、分かりやすいクイズ形式の動画を作り、児童と教職員のごみの分別の意識を高めた。

## (2) エネルギー使用量等の数値目標と評価

対象課・施設	目標	評価
新宿 NPO 協働推進センター	<p>電気・ガス・水道の使用量を記録し管理把握し、日常的に節水節電を心掛ける。</p> <p>照明や空調など関係する使用機器を適正に使用する。</p> <p>区全体の目標を鑑み、電気使用量の削減率前年度比-1%を目指す</p>	<p>巡回時に定期的にスタッフが電気・ガス・水量の使用量を記録し、常に把握している。また、毎月1回開催のスタッフ会議で省エネ・省資源が行われているかスタッフ全員で確認するようにしている。また、空調については、温度設定を決めて、その温度内での運用の励行を行っている。目標値であった、電気使用量の削減率前年度比-1%については、コロナの影響下ではあるが、前年度比約-6.4%となり、目標は達成した。</p>
落合第一特別出張所	<p>電気・ガス・水の使用量の記録・管理、照明や空調の適正な利用、節水の周知啓発を行うことで、使用量を昨年度以下にするよう努める。</p>	<p>電気・ガス・水の月ごとの使用量を把握したことで、増加月の確認や注意喚起を充実させる契機となった。</p> <p>電気約14%、ガス約9%、水約40%それぞれ削減することが出来た。</p> <p>開庁準備作業時や残業時は照明利用を必要最低限に抑えるようにした。</p> <p>トイレや給湯室の掲示を増やすことで、節電や節水を呼び掛けた。</p>
新宿歴史博物館	<p>エネルギー(電気・ガス・水道)使用量の一昨年度比1%削減を目標に重点的な取組事項を掲げ、使用量の削減に取り組む。LEDへの設備更新もすすめていく。(30年度電気使用量 529,646kWh、ガス 24,278 m<sup>3</sup>、水道 1,929 m<sup>3</sup>)</p> <p>昨年度は開館が例年より約3ヵ月少なかったため一昨年度を目標値とする。</p>	<p>令和2年度の電気使用量は484,978kWh(一昨年度比91.6%)、ガス使用量は21,864 m<sup>3</sup>(一昨年度比90.0%)、水道使用量は1,286 m<sup>3</sup>(一昨年度比66.6%)とそれぞれ下回った。</p> <p>LEDの導入も計画的に実施し環境保全について取り組んだ。</p> <p>2ヶ月半の臨時休館あり</p>
赤城生涯学習館	<p>こまめな節水や電源オン・オフ、空調の適切な温度設定などにより、電気・ガス・水道使用量を前年度より1%削減を目指し、省エネに努める。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により4月8日～7月14日の約3ヵ月間臨時休館したことも含め、こまめな節水や電源オン・オフ、空調の適切な温度設定などを行うことを心がけて省エネに努めた結果、前年度より電気使用量28.4%、ガス使用量14.1%、水道使用量52.3%減少した。</p> <p>また省エネ対策として、講習室・和室・教養室Aの照明設備をLED化した。</p>
東戸山小学校	<p>区の環境目標に挙げられているエネルギー等使用量前年度より1パーセント以上削減を目標とし、移動教室や使用しない場所の電気をこまめに消すなど、教員同士の声掛けや、委員会活動を通して削減への意識向上を図る。(電気使用量目標 268,700kwh)</p>	<p>教室を移動する際に、児童と教師がこまめに電気を消したり、放課後に廊下の電気を主事や教師が消すことで、エネルギー等使用量が前年度比16.2%減と、目標の1パーセント以上も削減できた。</p>